



『看護管理者のコンピテンシー・モデル 開発から運用まで』

編：虎の門病院看護部
B5 版・144 ページ
定価：3,570 円(本体 3,400 円+税 5%)
発行：医学書院 (TEL 03-3817-5600)

活用しやすいコンピテンシー評価の手引き書

評者◎菅田勝也 藍野大学医療保健学部長、日本看護評価学会理事長

コンピテンシーとは、「高業績者の行動特性」を示す能力概念として 1970 年代に提唱され、組織の人材マネジメントに実用化されたものである。本書は、このコンピテンシーの概念を基盤として、看護管理者に求められる能力を職位のレベル別に定義し、選任や育成のためのフィードバックに活用している、虎の門病院看護部の取り組みである。モデル開発のプロセスから実際のモデルの内容、運用方法まで具体的に紹介されている。

看護管理者が役割を遂行するために必要な能力は多岐にわたるため、知識・技術のレベルであげようとする、どこまで細分化したらよいのか、どこまで詳細に表現したらよいのか迷うのではないだろうか。本書で紹介されるコンピテンシー・モデルを活用することで、看護管理者の能力の定義と評価において、コンピテンシーを発揮する実際の行動と、それによる成果の生成という軸が与えられる。

本書では、スペンサーらのコンピテンシー・ディクショナリーを基盤とした、6 クラスター、16 項目によるコンピテンシー・モデルの職位レベルごとの定義だけでなく、各レベルのコンピテンシーを表わす行動がどのようなものであるのか、読者の理解を促す事例がほどよく示されている。

また、コンピテンシー・モデルの運用方法で紹介されているように、評価場面ではこれらの事例を題材として、被評価者の実践がそのコンピテンシーとみなせるかどうかについて具体的なフィードバックが行なわれており、評価者と被評価者の間のコミュニケーションツールとなっていること

がわかる。これは、「よい管理とはどのようなものか」についてのコミュニケーションともいえるであろう。看護管理も看護実践と同様に、優れた実践を文脈と切り離して考えることができないので、このような事例の蓄積は、組織にとって資産となる。

本書は実用的なものであるが、コンピテンシー・モデルの開発プロセスは、人材マネジメントにおいて成果を上げている理論に沿った、きわめて研究的な過程である。特に、コンピテンシーの抽出過程では、分析の偏りをなくすために丁寧な手順が踏まれたことが、簡潔な記述であるにもかかわらず十分に伝わってくる。また、モデルの妥当性の中で最も強力だが証明が難しい予見的妥当性を満たしていることがさりと述べられている。理論と結びついた実践という点がしっかりしていて、研究者にとっても学ぶべき取り組みといえる。

本書では、虎の門病院看護部の取り組みという視点にとどまらず、他の組織がコンピテンシー・モデルを開発し活用する上で助けとなるポイントも、組織の特性によってアレンジしやすいようにその余地を残して示されている。日本の看護管理者によって開発されたコンピテンシー評価の方法を紹介したこの本には、海外のこの種の本から受けるような押しつけられる感じがなく、私好みのほどのよさがある。

■虎の門病院看護部では、本書へのご意見、ご感想、ご質問を下記 URL にて受け付けています。
<http://www.toranomon-nurse.com/nurse/competency>